

令和 7(2025)年度

運営に関する計画



大阪市立豊崎小学校

大阪市立豊崎小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 6 年度の学力経年調査において、各教科の平均正答率は全学年 18 項目(教科)中 14 項目(教科)で大阪市平均を上回り、特に算数科においては、全学年で大阪市平均を大きく上回った。習熟度別授業の積極的な導入や授業中の複数での支援体制による個別指導、放課後学習、自主学習の取り組み等の推進により、一定の成果が表れているといえる。得点下位層の児童の底上げも前年度に比べると改善しているが、児童の実態から見るとまだまだ十分な指導・支援が必要との認識をもっている。

また、児童質問紙「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答した児童の割合が市平均より 10%以上高いものとなっている。この質問における数値向上は、学校運営上、本校が最も重視しているところであり、児童が楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、机上の学習だけにとどまらない幅広い視点をもって、児童が主体となる教育活動や体験学習の充実に努めていかなければならない。

さらに、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問における肯定的回答は、市平均をおよそ 4%下回る 75.7%となっており、自己有用感や肯定感が相対的に低いことが読み取れる。そのため、児童が活躍し自信をもたせる機会を数多く設定していくことが重要と考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の小学校経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 1 ポイント増加させる。
- 令和 7 年度の小学校経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

最重要目標 1【安全・安心な教育の推進】

- ①令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を 85%以上にする。
- ②令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を 81%以上にする。

最重要目標 2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ②令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ③令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

最重要目標 3【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 51%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- ②前年度より超過勤務時間が減少した教職員の割合を 50%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立豊崎小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標1【安全・安心な教育の推進】 ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を85%以上にする。 ②令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を81%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1 安全・安心な教育環境の実現】 ・毎月の職員会議や、児童理解に関する研修を実施し、学級担任を中心に子ども・保護者の状況を全教職員で共通理解する。 ・いじめアンケートを年3回行い、早期発見、組織的な対応を行う。 ・いじめ対策基本方針の流れに沿って組織的に対応する。	
指標 令和7年度の学校アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向番号2 豊かな心の育成】 ・より良い集団としての力をつけるためにたて割り班活動や児童会活動等、児童会年間指導計画を作成し、実施する。 ・各学級朝の会や帰りの会で「友だちの良いところ」や「自分のがんばり」等のスピーチや、朝会時の「ひとりひとこと」等、自分の意見を発表する場の設定をしたり、ギャラリー表彰に取り組み視覚的にも自分の頑張りを実感できるようにしたりする。 ・学級での係活動や児童会活動等で、子どもが自身の活動を振り返る活動を定期的に行い自己有用感を実感できるようにする。	
指標 令和7年度の学校アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を、前年度より向上させる。	

年度目標の達成状況の結果と分析
課題

大阪市立豊崎小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標2【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ①令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ②令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ③令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・子ども一人一人のつまずきの原因をみとる「たつじんテスト」を実施し、その結果をもとにして個に応じた指導を行うとともに、日々の授業における指導方法の工夫・改善を行う。 ・「大阪市総合的読解力育成カリキュラム」に基づいて年間35時間の授業を行い、指導方法の工夫とカリキュラムの修正・改善を行う。	
指標 令和7年度の小学校学力経年調査の算数及び国語に関し、平均正答率50%未満の児童が各学年9%以下になるようにする。	
取組内容②【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】 運動やスポーツをすることが好きな児童を育てる、及び健やかな体の育成に努めるため、以下の取り組みを行う。 ・発育測定や検診の時間などを使いながら、「健やかな体の育成・健康増進」のための保健体育の授業を充実させていく。 ・体育の授業の研修を行いながら、児童が体育の授業を楽しめるような指導法の工夫・改善を行っていく。	
指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」のアンケートと、1・2年の児童に対する同様の内容の校内アンケートについて、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。	

年度目標の達成状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立豊崎小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標3【学びを支える教育環境の充実】 ①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 ②前年度より超過勤務時間が減少した教職員の割合を50%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向番号6 教育DXの推進】 ・GIGA スクール構想に基づく各種 ICT 環境整備に対応し、児童の教育活動に有益となるよう ICT 環境の構築に努める。 ・教職員、児童ともに ICT 機器の使用の慣熟に努めるとともに、児童らが意欲的、かつ楽しんで学習活動に利用できるよう指導する。 ・ICT 機器の利用にあたってはオンライン環境下等での情報リテラシーについても十分指導するようにする。	
指標 学校アンケートにおいて「タブレットや大型提示装置を用いた学習は楽しい」（低）、「タブレットや大型提示装置を用いた学習は役に立っている」（高）に対して、肯定的に回答する割合を86%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向番号7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 ・教育環境の中でも学校教育活動を支える教職員自身が最大の教育環境と捉え、その教職員が体力面・精神面ともに充実した教育活動を行えるよう努める。	
指標 業務内容、会議の精選を行い、前年度より超過勤務時間が減少した教職員の割合を50%以上にする。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
次年度への改善点	

